

本科 0 期 1 月度

解答

Z 会東大進学教室

最難関大英語

早慶大英語



1 章 総合問題 1

問題

【1】

解答

- (1) **b** (2) 図を描いたり無言の身振りをしたりすること。(21 字)
(3) Those (4) unintelligible
(5) 物理的に複雑な形状や動きを伝えること。(19 字)
(6) ネクタイの締め方やハサミがどのようなものかについて説明を求めること。(34 字)
(7) no more

解説

- (1) この badly は「不適當に；不十分に (inadequately ; incompletely)」の意味で、**b**「ピクニックの計画が不適當だと誰もが思った。」が正解。
a 「彼は重傷を負った。」badly = very much
c 「母親は息子が人前に出て行儀悪く振る舞うのではないかと心配した。」
badly = disobediently
d 「人知れぬ収入のおかげで彼の暮らし向きは悪くない。」badly off = in an unsatisfactory condition especially in respect to money
(2) any other medium とは、具体的には後述の we draw a diagram or go through pantomimic gesture を指している。
cf. Radio is a medium of communication. (ラジオは伝達の一手段である。)
(3) are の主語は文頭の Those であるが、Those を修飾する who 以下の形容詞節があまりにも長いので、are の前にコンマをおいてある。
(4) 前文の what language can hardly do at all, and never does well (言語にとって不可能に近いことで、また、できたところでうまくいったとは決していえないこと) という部分を根拠として、正解の unintelligible [ʌnɪntɛlɪdʒəbl̩] = impossible to understand 「訳がわからない」を導き出す。
(5) this purpose は to inform us about complex physical shapes and movements を指す。
(6) The exercises は asking him to describe in words how one ties one's tie or what a pair of scissors is like を指す。すなわち、The exercises で始まる最後の文は、内容的には第3文 (Those who think ... are far astray.) につながることが読み取れるかどうかのポイントになる。
(7) no more ~ than ...
① 「～でないのは…でないのと同様」
Ex. I am *no more* excited *than* you are (= I am *not* excited *any more* than you are).

②「…と同様に～だけだ」

Ex. I am *no more* excited than you are (= I am *only as* excited as you are).

問題文は、言語の伝達機能の限界について述べたものであるが、乗馬の初心者馬術をみるのに、サーカスでやるような曲乗りをやらせるのが無理なことであるように、いわば言語の初心者というべき子供に向かって、ネクタイの締め方などを言葉で描写させようとするのが無理な検査方法であることを言っている。

全訳

言語は、伝達可能なものなら何であれそれを伝達するために存在する。言語による伝達が多過ぎるので、何か他の伝達手段が利用可能なら、あえて言語を用いて伝達しようとはしないものも存在する。子供の国語の「基礎的な」運用能力を調べようと思って、ネクタイをどうしめるかとかハサミがどんなものであるかを言葉によって説明するようその子供に要請する人々は、大きな間違いを犯している。というのは、そもそも言語にとって不可能に近いことで、また、できたところでうまくいったとは決していえないことは物理的に複雑な形状や動きを伝えることであるからである。そのために、古代の作家がそのようなものを描写している文章は、必ずと言っていいくらいに訳がわからない。またそのために、我々は実生活においては、このような目的のために言葉を自発的に利用する気にはとてもなれないので、図を描いたり、無言で身振りをやってみたりするのである。前述の調査員が子供に提示した問題が「基礎的な」言語能力を調べることにならないのは、サーカス演技場で最も難しい離れ業の乗馬が基礎的な乗馬技術を調べることにならないのと同じことである。

注

ℓ. 1 ◇ Some things it communicates ~

O S V

ℓ. 3 ◇ medium [mí:diəm] = a way of communicating information, etc. to people

◇ test = examine

◇ elementary = of the most basic kind

◇ command = the ability to use or control something

ℓ. 4 ◇ English : ここでは「国語としての英語」

ℓ. 5 ◇ far = by a great deal

◇ astray = ① away from the correct path or direction

② into error or morally questionable behavior

※ここでは②の意味で用いられているが、①の意味にかけて far が修飾しているものである

◇ for (接)「というのは… (だからだ)」

○理由の付け加え

○このような等位接続詞 for が導く節が独立するのは、入試長文を 20 題もやれば一度は出てくる形態。

◇ precisely (文修飾副詞)「はっきり言うが; そもそも」

ℓ. 6 ◇ complex = consisting of many different and connected parts

◇ hence = as a consequence : for this reason

- ℓ. 8 ◇ voluntarily [vɔ:ləntərəli] = of one's own free will
 ◇ diagram [daɪəgrəm] 「図」
 ◇ go through = perform (in the way one usually does)
- ℓ. 9 ◇ pantomimic [pəntəmɪmik]
 < pantomime [pəntəmɪm] = the way of movement and the expression of your face to communicate something or to tell a story
- ℓ. 10 ◇ competence [kəmpeɪtns] = the ability to do something well
 ◇ trick-riding 「離れ業の乗馬」
 ○ trick = something you do to make somebody believe something which is not true
- ℓ. 11 ◇ horsemanship 「馬術隊としての技術〔能力；腕前；作法〕」

【2】

ポイント

字数制限のない日本語内容説明問題と、内容一致問題から成る。第3段落以降は、それぞれの第1文が俗説の紹介となっており、第2文以降、検証が始まり、その結果の真偽が述べられている。この構成をつかむことが重要。

解答

- (1) 真実だと信じられている俗説が、科学的に調べた時に真実であるかどうかを調べたことを示そうとする例。
- (2) b, c, g

解説

- (1) 該当部分は下線部の直前の examined whether or not ~ scientific investigation である。この部分の構造は以下の通り。

examined whether or not some of the popular myths

S

 {(which) we have all heard enough times to assume they are probably true}

 actually hold up under the harsh light of scientific investigation

 V

whether or not … 「…かどうか」

we have の前には関係代名詞の目的格が省略されていると考える。～ probably true までが関係詞節。その中の enough ~ to … にも注意。

直訳すると、「私たち皆が何度も聞いてきたために多分真実なのだろうと思い込んでいる俗説のうちのいくつかが科学的調査の厳しい光のもとで実際に耐え得るか」となる。この内容を簡潔にまとめればよい。なお、解答の作成に当たっては、文末を「…する例」のようにすることに注意。

- (2)
- a 「科学によれば、人間の脳の90パーセントは使われていないという事実を認めざるを得ない。」第3段落第2文の後半に all parts of our brains are active and in use (脳

のすべての部位が活性化し、使われている」とあるので、一致しない。

- b 「人間のばかげた振る舞いは、脳の 10 パーセントしか使っていないという主張の証拠とはならない。」第 3 段落第 2 文で「脳のすべてが使われている」ことが述べられており、第 3 文で「人間のばかげた振る舞いについては、別の（＝脳の 10 パーセントしか使っていないから、という以外の）説明を探す必要がある」ことが述べられていることから判断して、これは一致する。
- c 「鶏は脳組織の特別な配置のために頭なしでしばらく生き延びることもある。」第 4 段落第 2 文により「鶏が頭なしで生き延びる」ことは真実だとわかる。さらに、第 3 文で、その理由が「脳幹が頭がないこと」であることが記されている。したがって、これは本文で主張されている考えに一致する。
- d 「頭のない鶏に関する議論は非科学的であるだけでなく、耐え難いことだ。」第 4 段落で「鶏が頭なしで生き延びる」ことは科学的に実証されているので、一致しない。
- e 「水が南半球と北半球では反対方向に回転するのは、水を排出する容器の形状とデザインが原因だ。」第 5 段落第 3 文には水の回転方向は水を排出する容器の形状とデザインに影響されるとはあるが、第 2 文で「北半球と南半球では水の回転方向が違うという主張は真実ではない」ことが述べられているので、一致しない。
- f 「容器における水の回転方向がひどく意見の分かれる問題であるのは、回転の起こる場所の地理に依存するからだ。」第 5 段落第 3 文に「回転は、流出する容器の形やデザインによる影響を受けるが、場所がどこかには影響されることはない」とあるので、一致しない。
- g 「見る限りでは、髪の毛と爪は死んだ後も成長し続けるように見える。」第 6 段落第 2 文では、実際には髪の毛と爪は伸びないが、「見た目の証拠はそうではない（＝伸びるように見える）」と述べられているので、これは一致する。
- h 「体が縮むために、死後も髪の毛と爪は伸び続ける。」第 6 段落第 3 文では、周りの皮膚が縮むにつれ、髪の毛や爪が伸びるように見えるということが述べられているが、第 2 文によれば、実際に髪の毛と爪が成長しているわけではない。よって一致しない。

全訳

インターネットにはひどい記事がたくさんあるが、理由がないわけではない。それは広く開放された討論の場で、そこには極めて不穏な内容があふれている。しかし、訪問してもよい本当に素晴らしいサイトもある。私の「お気に入り」のリストに登録してあるサイトの 1 つは、さまざまな学問分野の最新の研究の成果や発見を入手するのに、実に都合のいい場所だ。情報が（私のような）非科学者タイプの人間でも容易に理解できるように提示されている。

そのサイトで先週私の関心を引いた記事の 1 つは、私たちが皆さんに聞かされてきたために、おそらく真実だろうと思い込んでいる俗説のいくつかが、科学的な調査の厳しい光を当てた時に実際に耐えられるかどうかを検証する特集記事だった。以下にいくつか例を挙げることにする。

■人は脳のわずか 10 パーセントしか使用しない。確かに実生活で出会う人の多くは知的能力のごくわずかな部分しか使用していないように思われるが、MRI 造影の驚異が示すところによれば、脳のすべての箇所が活性化し、使用されているのだ。至る所で目にする、人

間の経験の多くを規定していると思われるばかげた振る舞いに対しては、別の説明を考え出さなければならないだろう。

■ 鶏は頭なしでも生きられる。衝撃的なことに、これは真実である。どうやら、鶏の反射運動をつかさどる脳幹が頭がないために、頭なしでもしばらくは体が機能し続けるようだ。ある頭なしの鶏は 18 カ月生き続けたようだ。

■ 南半球では容器から流れ出る水は北半球の場合とは反対の方向に回転する。これは一部たりとも真実ではない。回転は水を排出する容器の形やデザインによる影響を受けるが、あなたがどこにいるかに影響されることはない。

■ 死後も髪と爪は伸び続ける。見た目の証拠では真実のように見えても、これは真実ではない。死後、肉体は液体を失うので、周囲の皮膚が縮むにつれ、髪や爪が伸びるように見えるだけなのだ。

注

ℓ. 1 ◇ and not without reason 「そしてそれは理由のないことではない」

ℓ. 3 ◇ “favorites” list 「(インターネット・ブラウザの)『お気に入り』のリスト」

ℓ. 7 ◇ feature 「特集記事；読み物」

ℓ. 13 ◇ in use 「使われている」

Ex. The room won't be *in use* next Saturday.

(その部屋は次の土曜日は空いている。)

ℓ. 16 ◇ brain stem 「脳幹」

ℓ. 17 ◇ reflex 「反射 (運動)」

ℓ. 21 ◇ (There is) Not a portion of truth to this one 「このことには真実のかけらもない」

There is を補って読む。

【3】

解答

(1) c (2) d (3) c (4) c (5) c (6) d (7) a (8) b

解説

(1) 「特別なイベントのために赤い絨毯が敷かれた。」

○ lay ～ 「～を横にする」 lay - laid - laid - laying

cf. lie (横になる) lie - lay - lain - lying

(2) 「彼女は僕が嫌いだから嘘をついているのだと思った。」

○ lie (嘘をつく) lie - lied - lied - lying

(3) 「シー氏とソア氏は旧友だった。シー氏はノコギリを所有しており、ソア氏はシーソーを所有していた。さて、ソア氏がシー氏に会う前にシー氏はノコギリでソア氏のシーソーを切ってしまった。そしてそのことがソア氏を悲しませた。」

○ saw 「ノコギリで切る」 saw - sawed - sawed - sawing

cf. see ～ (～を見る) see - saw - seen - seeing

sew ～ (～を縫う) sew - sewed - sewn [sewed] - sewing

(4) 「まいた種は刈り取らねばならない〔身から出た錆〕。」

- sow ～「～（＝種）をまく」 sow - sowed - sown [sowed] - sowing
- (5) 「突然、溶岩がキラウエア火山の斜面を流れ落ちた。」
- flow 「流れる」 flow - flowed - flowed - flowing
- cf. fly (飛ぶ) fly - flew - flown - flying
- fly (フライを打ち上げる) fly - flied - flied - flying
- flee (逃げる) flee - fled - fled - fleeing
- (6) 「樫の木は、一撃で切り倒すことはできない。」
- ※大きなことのメリットを表すたとえ。
- fell ～「～を切り倒す」 fell - felled - felled - felling
- cf. fall (倒れる) fall - fell - fallen - falling
- (7) 「彼がついに彼女を見た時、彼の心は喜びで弾んだ。」
- bound (弾む) bound - bounded - bounded - bounding
- cf. bind ～（～を束ねる） bind - bound - bound - binding
- (8) 「その本で、彼は異なる視点から、地球温暖化について問題を提起した。」
- raise ～「～を持ち上げる；～を提起する；～を育てる；～を集める」
- raise - raised - raised - raising
- cf. rise (上がる) rise - rose - risen - rising

【4】

解答

- (1) c (2) d (3) b (4) d (5) b (6) c (7) a (8) c

解説

- (1) 「彼女は食事の前にいつも手を洗う。」
before every meal とあるので日常的行為を表す現在形にする。
- (2) 「つい最近やっとテイラーさんは我が部の部長に昇進した。」
only が文頭に来ているためにその後は倒置形になる。recently は現在形では用いないのが普通（現在形と共に用いるのは these days や nowadays など）。
- (3) 「10年前、私たちはうろたえた。というのは一人娘が学校を中退すると言ったからだ。」
our only daughter tells us that she will drop out of school の tells を told にした結果、時制の一致を受けて would drop になったと考えればよい。
- (4) 「雪が降り始めた時、両親はあまり遠くへと行っていなかった。」
began to snow の時点で「あまり遠くへ行っていなかった」という状況を考える。
- (5) 「今日、授業で子供たちは『794年に首都が平安京へと遷都した』ことを学ぶ。」
歴史的事実は時制の一致などの影響を受けないため、常に過去形でよい。
- (6) 「予想とまったく違っていたため、その商品をお店に返品した。」
since は「～以来」ではなく、「理由」を表している。
- (7) 「コロンブスは地球が丸いと証明した。」
普遍の真理など、現在でも該当する事実は時制の一致を受けない。

- (8) 「来週もしこの本を読み終えたら貸してあげるよ。」

時・条件を表す副詞節の中では、‘未来のことは現在時制，未来完了のことは現在完了時制’で表す。

【5】

解答・解説

- (1) what 「パーティーで私を最も楽しませてくれたことは、あなたを最も楽しませてくれたことと同じではないと思う。」
- (2) what 「その見出しが伝えようとしていることは、我が社にとって悪い知らせではないかと思う。」
- (3) what 「光と目との関係は、空気と肺との関係と同じである。」
- (4) what 「電話であなたが友達に何と言ったかは問題ではない。」
- (5) that 「その大会で私たちが全力を出し切ったということがとても大切だと思う。」
- (6) That 「サイモンが来なかったということは私には問題ではない。」
- (7) What 「社長がしなければならないことは、新たな支店を開くことだ。」
- (8) what 「今日できることを明日まで延ばすな。」
- (9) that 「新聞によると、汚染した血液を 10 年前に輸血した 55 歳の男性がエイズを発症したということだ。」
○ taint ～ 「～を汚染する；～を墮落させる」
- (10) that 「その少女は、名門大学に入ることを許されるために、自己を男性だと偽った。」
- (11) that 「脳の仕組みは大変複雑で大変神秘的なので、脳研究を『前人未到の森の中をさまようこと』と呼ぶ研究者もいる。」
- (12) that 「もう 1 度搜索をしても意味がないと、探偵は思った。」

【6】

A.

解答

b could swim → was able to swim [managed to swim]

解説

could は過去の 1 度きりの動作（その時…できた）を表すことはできない。

- a 「ジェラルドは大変若い頃、ピアノを上手に弾くことができた。」(could は‘過去の能力’を表す。そのとき 1 度だけ弾けた訳ではない)
- b 「ジャックは橋から落ちたが、何とか岸まで泳ぐことができた。」
- c 「もし気になさなければ、後で詳細に説明致しましょう。」(仮定法過去)
- d 「サラは、涙を見せながらも、彼の冗談に笑わずにはいられなかった。」(否定の could not … は、1 度きりの動作でも使用可能)

B.

解答

- (1) should inform
- (2) for, should

- (3) cannot have said
- (4) must have studied
- (5) need not, been lost

解説

- (1) 「学生はすべて校則を知っておく必要がある。」
necessary は‘必要性’の形容詞であるため that 節には仮定法現在かそれに代わる should を置く。
- (2) 「中国経済を考慮すると、多くの学生が中国語学習に興味を持つことは不思議でない。」
この should は主観的な should と呼ばれ、(1) の‘仮定法現在の代用’とは異なることに注意。
- (3) 「アンナが両親にそんなひどいことを言ったはずがない。」
○ ‘助動詞 + have 過去分詞’の形式
may have 過去分詞「…だったかもしれない」
must have 過去分詞「…だったに違いない」
cannot have 過去分詞「…だったはずがない」
should have 過去分詞「…だったはずだ；…すべきだったのに」
needn't have 過去分詞「…する必要はなかったのに」 など
- (4) 「今学期、彼の成績は上がった。彼は毎晩一生懸命勉強したに違いない。」
- (5) 「この事故は起きる必要はなかった。これらの命が失われる必要はなかったと思う。」

問題

解答 |||||

解説

—concerning motivation and behavior.

2-1

いくつかの日常的な行動について考えることから始めよう。誰でも一度は、人が自分の行為を正当化しようとしているのを見たことがあるだろう。試験のために一所懸命勉強している学生は、その試験がいかに重要であるかということを他人に言うかもしれない。子供をある私立学校に行かせることを決めた親は、その学校の素晴らしい利点を説明して他人を閉口させるかもしれない。ある女性を夕食に誘うために分不相応にお金を使う若い男性は、翌日、彼女がどれほど素晴らしい女性かを熱狂的に話すかもしれない。

そのような行動を我々はどうのように説明し、理解するだろうか。動機と行動についての常識や十分に認められた考えに基づいて、こういった行動を理解するのは非常にやさしいと言う人もいるかもしれない。もしその学生が試験はあまり重要でないと思っていたら、彼はそんなに一所懸命勉強しなかっただろうし、もしその親が私立学校が素晴らしいと思っていたら、自分の子供をそこへ行かせることを決めなかっただろう。また、その若い男性が相手の女性に熱狂的でなかったなら、その女性を食事に誘うのにそれほどのお金を使うことはなかっただろう。これらはすべて非常に妥当に思われ、しかも本当であることは疑いの余地がない。

注

- ℓ. 2 ◇ by and large 「全般的に」
- ℓ. 3 ◇ cautious 「注意深い」
- ℓ. 4 ◇ inconsistency 「矛盾」
- ℓ. 5 ◇ concern *oneself* with ~ 「～に関心を持つ」
- ℓ. 6 ◇ consequence 「結果；影響」
- ℓ. 10 ◇ overwhelm A with B 「(精神的に) AをBで圧倒する；AをBで参らせる」
- ℓ. 19 ◇ enthusiastic 「熱狂的な」
- ℓ. 20 ◇ plausible 「妥当な」

【2】

ポイント

脳に対するカフェインの効能をテーマとしたエッセイ。設問は副詞の空所補充と下線部意味選択である。空所補充は1つの空所を見ただけでは選択肢を絞りにくいものが多い。まず確実にわかるところから埋めていき、選択肢を消去していこう。下線部の意味選択は文脈の把握が鍵。選択肢の語句の意味ぐらひはすべてわかるように語彙力もつけておきたい。

解答

- | | | | | | |
|-----|------------|------------|------------|------------|------------|
| (1) | ① a | ② c | ③ e | ④ a | ⑤ b |
| | ⑥ j | ⑦ i | ⑧ f | ⑨ h | ⑩ d |
| (2) | ① b | ② d | ③ b | ④ c | ⑤ d |
| | ⑥ c | | | | |

解説

(1)

- ① 空所の前では「カフェインの効果が出るやいなや」と述べ、後には「頭が冴える」ということを続けている。a 「一時的に」は入り得るが、ここはカフェインを摂ると頭

がよくなるという説を、筆者が正しいと思う根拠として述べているところなので、やや不自然だろう。他の空所も考慮していくと、ここには **g** 「すぐに」しか入らない。ただし、as soon as … (…するとすぐに) にその意味が含まれているので、本来は余剰な表現である。

- ⑥ 「カフェインを摂ると頭がよくなる」という自分の assessment (評価；予想) は subjective (主観的) なものであると断っているの、ここに入る副詞は **c** 「完全に」や **f** 「非常に」が候補となるだろう。後で見る⑨に **f** が入るので、ここは **c** が当てはまる。
- ⑦ the same を修飾するのに最もよく合うのは **e** 「まさしく；ちょうど」である。**d** も「実質的に」などの意にとれば入るかもしれないが、**e** は⑦以外に入りそうなところがない。
- ⑧ 「コーヒーを2杯飲むと短期記憶が増強される」と述べた後に、at least ～ (少なくとも～) と付け加えている。**g** や **h** を入れて「少なくともすぐに」や「少なくとも永久に」としてはおかしいことはわかるだろう。ここに当てはまるのは **a** 「一時的に」のみである。
- ⑨ カフェインには体によい点がたくさんあると筆者は言っている。それに対して、空所の後の that 節の「カフェインのような習慣性の高い薬物は体に悪いに違いない」という内容は、一般的によくある思い込みである。よって、ここは **b** 「当然」を入れて「当然…と思い込む」とする他に合いそうな選択肢はない。**g** などを入れても、いつを基準として「ただちに」と言っているのかよくわからないので不適。
- ⑩ ダッシュ (—) には含まれた部分はカフェインの補足説明で、「地球で最も…摂取されている向精神薬」という意味である。ここに **j** 「広く」が合うことはわかりやすいだろう。
- ⑪ 動詞が現在完了になっているのが手がかかり。前文で「初期の研究では膀胱ガンや高血圧などの病気を引き起こすかもしれないとされた」とあるのに対して、空所に **i** を入れて「最近では研究によってそれらが否定されただけでなく、重要な恩恵も発見された」とすれば文脈に合う。
- ⑫ 「そのような結果 (= カフェインが流産を引き起こす危険性があること) には議論の余地がある」という文である。controversial という形容詞を修飾するものとして適切なのは **f** 「非常に」しかない。**i** の recently は現在形の動詞と共に用いることはできないので不可。
- ⑬ 「カフェインは知能 (intelligence) を変えることはできない」として、さらに、その知能は inherent quality (生まれつきの (= 変わることはない) 特質) であると言っているのだから、**h** を入れて「いつまでも人の性質の一部である」とするのが文脈に合う。
- ⑭ 空所を含む文のセミコロンの前では、生まれつき持っている知能自体をカフェインが変えることはできないと筆者は言っている。空所をはさんだ call on ～ は「～に訴える；～を行使する」という意味で、セミコロンの後では「もともと持っている知能を…使えるようになるだけだ」と言っている。よって、ここには **d** 「効果的に」が最も合う。

(2)

- ① a「その仕事に興味がある」、b「その仕事の能力がある」、c「その仕事に満足している」、d「その仕事に値する」(be) equal to ～には「～に等しい；～に匹敵する」という意味の他、「～(＝仕事など)に耐えられる」という意味がある。したがって、ここは**b**が適切。この文は仮定法過去で、without ～(～がなければ)が条件節の役割をしている。カフェインと頭脳の働きの関係について述べている文脈からも十分に推測可能だろう。
- ② a「私はそれについてこれ以上話したくない」、b「カフェインの効果は最終的である」、c「私は言いたいことをすでに言った」、d「カフェインの力はすでに証明されている」この case は「問題；件」の意で、具体的には「カフェインを摂ると頭がよくなるかどうか」という問題のことである。close ～はここでは「～を終える；～に決着をつける」の意。筆者は前の文で自分の経験上カフェインを摂ると頭が冴えることを述べているのだから、「私に関する限り、カフェインが頭によいことはもうわかっている」と解釈するのが適当。したがって、**d**が正解。
- ③ a「～の正しさを証明した」、b「～の誤りを証明した」、c「～に賛成した」、d「～に反対した」下線部を含む文が However で始まっているのが重要である。前の文では、カフェインが体に悪いという考えが述べられているから、次の文を逆接で続けるには**b**か**d**が適切となる。refute ～は「～の間違いを証明する」という意味で、**b**がほぼ同意である。
- ④ a「徐々に出てくる」、b「問題を引き起こす」、c「突然効果が出る」、d「思いがけず作用する」kick in は口語的な表現で、なじみがないかもしれないが、前後でカフェインが頭の働きを高めることを述べていることから、**b**は文脈に合わないことがわかるだろう。kick in には「(薬などが)効き始める」という意味があり、aの「徐々に」というよりもcの「突然」というニュアンスに近い。**d**は unexpectedly という語が余計である。したがって、**c**が正解。
- ⑤ a「～を示す〔実証する〕」、b「～を完全にする〔完成する〕」、c「～を複雑にする」、d「～を豊かにする」前文で、コーヒーに含まれる抗酸化物質によってコーヒーの病氣予防効果が説明される、という研究の結果が述べられているので、「もっと研究すれば、コーヒーの効能についての知識が豊かになる」とすれば文脈に合う。augment は「～を増大させる」という意味である。
- ⑥ a「必要ない」、b「興味深くない」、c「関係ない」、d「十分でない」筆者はここまでカフェインやコーヒーの効能について述べ連ねてきたが、最終文で、冒頭の喫茶店の描写に戻っている。point は「重要な事柄」の意であるから、下線部は「さしあたってすぐに重要となる問題ではない」といった意味になる。そして周りの客にとって今重要なこととは、「コーヒーを飲むことだけ」なのだと言っている。つまり、コーヒーの効用などは彼らにとって「関係ない」ということである。したがって、**c**が正解。

全訳

私は今プリンストン大学の近くにあるスモール・ワールド・コーヒーという喫茶店に座っている。なぜここにいるかというと、カフェインによって頭はよくなるかという問題に関す

る記事を書くように、編集者に注文されたからである。だから今日は、エスプレッソをいつもの2杯ではなく3杯飲まなければ、この仕事をできる気がしないだろう。しかし私の経験では、強いカフェインが効き始めるやいなや、すぐに頭が冴えてきて、集中力が高まり、頭の回転が速くなり、賢くなる。私に関する限り、この問題はすでに終わっている。

それはまったく主観的な評価であるが、実験室での制御実験でもまったく同じ結果が出ている。つい先月、オーストリアの科学者たちが、コーヒー2杯相当で少なくとも一時的には短期記憶が増強されるということを示した研究について報告した。そしてそれはカフェインが頭の働きを高めることを証明する、長期間にわたって行われてきた実験の中で、最新のものにすぎない。

実際、カフェインとコーヒーについて、だいたいのところ驚くほどよいニュースがこれまでにたくさん出てきている。地球上で最も広く摂取されている向精神薬であるカフェインのような習慣性の強い薬物は、体に悪いに違いないと、あなたは当然のこととして思うだろう。そして初期の研究では、カフェインにより膀胱ガン、高血圧、その他の病気が引き起こされるかもしれないということが示されたのである。しかしながら、最近では、より多くの研究がこのような主張の大部分を否定したばかりでなく、いくつかの重要な恩恵を見つけたのである。カフェインは、肝臓障害、パーキンソン病、糖尿病、アルツハイマー病、鬱病、そしておそらくある種のガンに対して予防効果を持っているようである。唯一証明済みである医学的に悪い面は、血圧を著しく上昇させるということのようであり、これはすでに高血圧を患っている場合にのみ問題となる。妊娠している女性が流産する危険性が高くなると示唆する研究もあるのだが、その結果は大いに議論の余地がある。

カフェインの効用について発見されたことの大部分は、さらなる検証を要するが、カフェインに脳の力を高める効能があることは、もっともな疑いを抱けないほど証明されている。アメリカの科学的・研究専門の心理学者ハリス・リーパーマンはこう言っている。知能は生まれつきの特質で、いつまでも人の性質の一部であり、カフェインがそれを変えることはできない。しかし、カフェインは頭の働きを高めることができる。

しかし、カフェインの本当の力は、疲れている時に急に効果が出始める。もう一度言うが、カフェインは本質的に頭をよくしてくれはしない。すでに持っている知能をより効果的に発揮させるだけである。もちろん、カフェインは単一の化学物質にすぎず、一方コーヒーは多数の物質を含んでいる。その中には抗酸化物質があり、このことが病気の予防効果があることを部分的に説明することができるかもしれない。さらに研究が進めば、いらいらする気持ちをつのらせずに集中力を高めるコーヒーの力に関する知識が増えるだろう。この喫茶店にたくさん集まっている常連客にとって、このことはすべて関係のないことである。彼らにとって喫緊の問題は何よりも、通りをほんのちょっと歩いたところにある大学で待ち受けている知的難問を解決しに出かける前に、朝のコーヒーを1杯飲むことにすぎないようである。

注.....

ℓ. 5 ◇ alert 「敏感な；機敏な」

ℓ. 9 ◇ boost ～「～を増加〔促進〕する」

ℓ. 13 ◇ addictive 「習慣性の；中毒性の」

ℓ. 14 ◇ psychoactive 「向精神性の」

- ℓ. 18 ◇ diabetes 「糖尿病」
 ℓ. 21 ◇ miscarriage 「流産」
 ℓ. 31 ◇ antioxidant 「抗酸化物質」
 ℓ. 33 ◇ irritability 「短気；怒りっぽさ」

【3】

解答

- (1) c (2) a (3) c (4) c (5) d (6) a (7) b

解説

- (1) 「都会人は最新の流行とファッションに敏感である。」
 ○ sensual 「官能的な」, sensible 「分別のある；感じられる」, sensitive 「敏感な」, sensory 「感覚に関する」
 (2) 「イタリア人とギリシア人が、それぞれの文化の偉大さについて語り合っていた。」
 ○ respective 「それぞれの」, respectful 「敬意を表した」, respectable 「まともな；見苦しくない」, respectively 「それぞれ；めいめいに」
 (3) 「ジョーンズ氏は新たなビジネスにかなりの額のお金を投資した。」
 ○ considerate 「思いやりのある」, considerable 「かなりの；相当な」
 (4) 「麒麟は、馬にも龍にも似た、中国の架空の動物だ。」
 ○ imaginable 「想像しうる」, imaginative 「想像力豊かな」, imaginary 「架空の」
 (5) 「絵馬の名は、文字通りに言えば馬の絵という意味だ。」
 ○ literary 「文学の」, literal 「文字通りの」, literate 「読み書きできる」, literally 「文字通りに」
 (6) 「トーマスは13番から16番ホールまで4連続バーディーを奪った。」
 ○ successive 「連続した」, successful 「成功した」, economic 「経済の」, economical 「経済的な」
 (7) 「新聞によると、その会社は5000トン以上の産業廃棄物を違法に捨てたということだ。」
 ○ industrious 「勤勉な」, industrial 「産業の」, historical 「歴史上の」, historic 「歴史的に重要な」

【4】

解答

- (1) To my surprise, the result was the very opposite of what I had expected.
 (2) At the party she wore a beautiful kimono we hadn't yet seen her in.
 (3) ① Be sure to let me know when you'll leave for New York.
 ② Don't forget {fail} to let me know when you're going to start for New York.
 (4) What is the point {use ; good} of arguing about who is to blame for the failure?
 (5) One of the most noticeable people who come to this market every week is that woman with a puppy.

- (6) With the prolonged recession, many people say that they are having a hard time making both ends meet.

別解 In the long recession many people complain that they are finding it hard to manage on their income.

解説

- (1) 「驚いたことに」は to my surprise が慣用表現化しているので、これを用いる。「結果は私の予想とはまったく逆だった」は the result (その結果) を主語として「～とはまったく逆」が述部となる構造にする。「～とはまったく逆」は was the very opposite of ～ とすればよい。この very は「ちょうどその；まさに」の意の形容詞である。「私の予想」は、残った語の I, had, what, expected を用いることになるが、述部の (opposite) of の後ろに続けるには名詞節を作る必要がある。そこで「私が予想したこと」と読み換えて、関係詞 what で始めて、what I had expected とする。
- (2) 文の骨格となるのは「彼女は美しい着物を身に着けていた」で、これは She wore a beautiful kimono や She was in a beautiful kimono だが、与えられた語句に was はないので、She wore a beautiful kimono とする。次に、「美しい着物」を修飾する部分は「我々は彼女が(美しい着物を)着ているのを今まで見たことがない」ということ。残っている語句の seen に着目すると、「O が…の状態なのが見える」という知覚動詞の構文を用いることが推測できる。「着物を身に着けている」の表現は、先ほど用いなかった in (a beautiful kimono) が使えるので、we hadn't yet seen her in (a beautiful kimono) となる。これらに関係詞を使って 1 文にすると She wore a beautiful kimono which [that] we hadn't yet seen her in. となる。関係詞 which [that] は与えられていないので省略する。at the party は、先行詞 a beautiful kimono と関係詞節を離さないために文頭に置くのがよい。
- (3) ①「忘れないで…してね」は「きっと〔必ず〕…してね」と考え、Be sure to … の形で表せばよい。「連絡してね」は「私に知らせてくれ」ということだから let me know が適切。「いつニューヨークに発つのか」は when you will [are going to] leave [start] for New York とする。
- ②「忘れずに連絡してね」を「連絡するのを忘れないでね」と読み換える。したがって、Don't forget to … または Don't fail to … で始めればよい。forget は目的語として不定詞をとると「(これから) …するのを忘れる」、動名詞をとると「…したことを忘れる」という意味の違いが生じることに注意。
- (4) 「What で始まる疑問文」という指示から、「～を議論することに何の意味があるのだろうか」という修辞疑問文で表せばよいと判断する。「…することに何の意味があるのか」は What is the point [use ; good] of …ing? の形で表す。

Ex. What's the point of getting angry? = There is no point (in) getting angry.

(怒っても仕方がないよ。)

「～について議論する」は argue about ～ である。「誰に失敗の責任があるか」は be to blame for ～ ; be responsible for ～ を使って who is to blame for the failure や who is responsible for the failure とする。

- (5) 与えられた書き出しから、「毎週この市場に来る人の中で最も人目を引く人物の1人」が主部となる英文にする。「毎週この市場に来る人の1人」は people を先行詞として「毎週この市場に来る」を関係詞節で表し、One of the people who come to this market every week とする。

関係詞 who は複数の先行詞 (the) people を受けているので、節内の動詞 come は comes にはならないことに注意する。「人目を引く」は noticeable や conspicuous。「子犬を連れたあの婦人」は that woman with a puppy とするのが簡単である。これらを be 動詞でつなぐわけだが、主部の中心となるのは one であるから、be 動詞は is となる。

- (6) 「長引く不況で」「不況」は recession か depression。ただし depression は「長期にわたる深刻な不況；恐慌」、recession は「一時的な不況」を表す。「長引く」は形容詞 prolonged や long で表せる。「～で」は with ; in ; owing to ; because of といった前置詞 (句) で表す。

「…と言う人が多い」「多くの人が…と言う」と考えて many people say [complain] that … とすればよい。

「やり繰りに頭が痛い」「やり繰り」は「収支を合わせる；収入の範囲内でやっていく」と考えて make (both) ends meet ; manage on one's income のようにするとよい。「～に頭が痛い」は「…するのに苦労している [する]」「…するのが困難だと思っている [思う]」と考えて、are having [have] a hard time …ing ; are finding [find] it hard to … といった形で表すとよい。

【5】

解答

- (1) b (2) b (3) c (4) c (5) a
(6) b (7) c (8) d (9) a (10) a

解説

- (1) 「彼女の話聞いた人は皆、驚いた。」
all は一般に人を表す場合は複数扱いになる。
cf. All is quiet. (辺り一帯が静まり返っている。)
- (2) 「彼の家族は皆、その知らせを聞いてとてもうれしくなった。」
family は衆多名詞などと言われ、家族の「人々」を表すため複数扱い。
- (3) 「どの家庭も戸棚の中に骸骨がある。」
どんな家庭にも知られたくない秘密があることのたとえ。family は家族全体を1つとして考える場合には単数扱い。
- (4) 「彼女だけでなく私もまた、その新作の映画に興味を持っている。」
主語が not only A but also B の時、動詞は B に一致させる。
- (5) 「あなた方はどちらも今晚のミュージカルに出かけないのですね。」
neither of ～は単数扱いがふつう。
- (6) 「患者の半数がこの新薬に効果を示している。」

half of ～の単複は、原則として～の単複に一致する。

- (7) 「医師が言うには、彼女も私もどちらも健康だそうです。」

both she and I = we と考えてもよい。

- (8) 「この画家に関しては、たくさんの本が出版されてきた。」

○ a number of ～ 「たくさん～ (複数扱い)」

cf. the number of ～ (～の数 (単数扱い))

- (9) 「ウィスキーソーダはお風呂の後には最高の飲み物だ。」

Whisky and soda は1つの飲み物として単数扱い。

- (10) 「この問題に関して、あなたか私のどちらかが悪い。」

(either) A or B が主語の時は、動詞はBに一致させる。

【6】

解答・解説

- (1) The と are を削除

Most houses in Japan used to be made of wood. (日本家屋の大半はかつて木造だった。)

- (2) as good as is settled → as good as settled, hardly nothing → hardly anything

The problem is as good as settled and there is hardly anything left for us to do.

(その問題は解決したも同然で、私たちがやることはまったく残っていない。)

○ as good as ～ 「～も同然だ」

Ex. He is *as good as* a beggar. (彼は物乞い同然だ。)

- (3) なし「ジョーンズ氏は非常に影響力が強い。つまり、きわめて重要な人物だ。」

○ a most ～ 「きわめて～な」 (絶対最上級)

- (4) few → fewer, forty → forty / presents → present

「私は本当に驚いた。というのは、その部屋には40人もの生徒がいたからだ。」

- (5) なし「彼女は、日本ではずば抜けて最高の歌手であることは皆が認めている。」

3章 総合問題3

問題

【1】

解答

- (1) ① a e ② b e ③ c c ④ d a ⑤ e b
⑥ f d ⑦ g e ⑧ h c ⑨ i d ⑩ j b

(2) 「全訳」の下線部参照。

解説

(1)

- ① 第1段落は日本の教育制度を問題提起し、その中心は schoolchildren であり、to absorb masses of facts の能力の持ち主は pupils であると判断する。
○ the ability of ~ to ... 「～が…する能力」
- ② 第2段落第2文 To take 以下で、日本の生徒の成績がよい理由として、「試験のために訓練をされている」とあるので、格別驚くことではない。
b wishful thinking 「希望的観測；願望的思考」
c incredible 「信じられない；信用できない」
- ③ evaluate = judge the value of = measure である。目的語は、say（例えば）を挟んで、the ability ... or just the ability to ask questions である。
- ④ 複数名詞で、従属節（仮定法）の主語 tests のこと。
- ⑤ 空所を含む英文は、However で始まり、筆者は日本の教育制度を否定的にとらえているので、「日本の教育制度のどこが deficient（欠陥がある）かを明らかにするだろう」と読める。
a fundamental 「基本的な」
c resentful 「憤慨している」
d effective 「効果的である」
- ⑥ education の説明は、直後のコロンの以下、「単に知的情報を伝えることだけではなく、知的能力を引き出し、それらを発達させること」の内容から、d の「潜在能力が育つようにさせる」が正解となる。
a 「ある技法で導くこと」 b 「役立つ知識を与えること」
c 「事実に関する知識を与えること」 e 「知性を活用すること」
- ⑦ charge の根本的な意味は「充足」である。ここでは「責任を持って引き受けるもの〔人〕；預かり物；託された人」から具体的には pupils を指していると考ええる。
- ⑧ a purpose = sharpening the reasoning ability of its charges（生徒の判断能力を鋭敏にすること）で、この1文は Far from ~ で始まっているので、「その目的に反する」が筆者の意見。hostile to ~ は「～に適さない」の意。
- ⑨ ここは spontaneous behaviour（自発的行動）とともに spontaneous reasoning 「自

発的判断」が学校で組織的に抑えられてしまう理由を述べた部分なので、「originalityを許す余地 (= patience) がない」と考える。

- ① 生徒に質問することを教えないで、「そのかわり (= instead) 丸暗記を強調する」のである。
- (2) 第1文は省略を補って考えること。

Japan's education system has gained a reputation overseas as one of the best [, if (Japan's education system is) not the best,] in the world.

- reputation 「評判；名声」
- if not ~ 「～でないにしても；～とまではいかなくても」
- rest on ~ 「～に基づく」
- partly 「部分的に；一部は」
- presumed connection 「想定される関係」 cf. presume ~ (～を推定する；～を仮定する)

全訳

日本の教育制度は世界の中で最善ではないにしても、最善なものの1つであるという評判を海外で得てきた。このような評判は、1つには、日本の生徒達が国際的な数学のテストで高い(しばしば最も高い)得点を獲得していること、さらには日本が経済的に成功を収めている国であることから推測されうる関係に基づいている。その評判は、日本の学校における規律、母親たちの献身、多くの知識を吸収してしまう生徒の能力に感銘を受けた専門家の意見によって裏付けられているのである。

日本の生徒が国際的な筆記試験で成績がよいということは驚くにあたらない。まさにそのような試験を受けること、そのために日本の生徒は小学校から高校まで訓練されているのである。しかしながら、もし、そういう試験が、例えば結論を導き出したり、事実から抽象概念を引き出したり、抽象概念を結び付けたり、自分の考えを論文にまとめたり、外国語で自分の意見を述べたりする能力を、あるいは、ただ質問をする能力を測ろうとするものだとしたら、その試験により、日本の教育制度のどこに欠陥があるのかということが明らかになるであろう。

日本の学校が目標とすることほど、英語の education の単に知的情報を伝えることだけではなく、知力を引き出し、それらを発達させることという本来の意味からかけ離れているものは、まずないだろう。生徒の推論能力を鋭くするどころか、日本の教育制度は、概してそのような目的に適していない。自発的判断は、自発的行動と共に、ほとんどすべての学校で組織的に抑圧されている。そこでは、独自性を許す余地は存在しないのだ。生徒たちは論理的に考えることや適切な質問をすることを——もっと言えば、いかなる質問をすることもまったく教えられていないのだ。そのかわりに、機械的暗記が強調されているのである。

注

- ℓ. 4 ◇ it = this reputation
◇ back up ~ 「～を支持する」
◇ remark 「意見」
- ℓ. 5 ◇ discipline 「規律」

- ◇ commitment 「献身」
- ℓ. 6 ◇ masses of ～ 「多量の～」 (≡ a mass of ～)
- ℓ. 7 ◇ do well 「うまくやる；成功する」 「学校の成績がよい」 という事。
- ℓ. 8 ◇ what は関係代名詞。
- ℓ. 9 ◇ if the tests were to evaluate, … the ability to ask questions
 仮定法過去の条件節。to draw conclusions, to abstract from facts, to connect
 abstractions, to organise one's thoughts in an essay, to express oneself in another
 language は並列で, the ability を修飾している。
- ◇ say = for example
- ◇ draw conclusions 「結論を導く」
- ◇ abstract from ～ 「～から抽象概念を引き出す；～を一般化する」
- ℓ. 10 ◇ organise ～ 「～をまとめる [体系だてる]」 アメリカ英語では organize。
- ◇ essay 「論文」
- ◇ express oneself 「自分の考えや感情を述べる」
- ℓ. 11 ◇ reveal ～ 「～を明らかにする」
- ℓ. 13 ◇ be removed from ～ 「～から離れている」
- ◇ removed = far
 e.g. from a motive which is not so removed from jealousy
 (嫉妬心からそれほど離れていない動機で)
- ℓ. 14 ◇ to bring forth and develop the powers of the mind, rather than merely imparting
 factual information
 直前の education の説明をしている部分。
- bring ～ forth = produce ～
 目的語は the powers of the mind で, develop と共通の目的語。
- the powers of the mind 「知力」
- ℓ. 15 ○ A rather than B 「BではなくA」
- impart ～ 「～を分け与える」
- factual 「事実に基づく」
- ◇ far from …ing 「…するどころか」
 Ex. Far from falling, the prices of commodities went on rising.
 (下がるどころか, 物価は上昇し続けた。)
- ◇ sharpen ～ 「～を鋭くする」
- ◇ reasoning ability 「判断力；推論能力」
- ℓ. 16 ◇ on the whole 「概して」
- ℓ. 17 ◇ spontaneous 「自発的な」
- ◇ along with ～ 「～と一緒に」
- ◇ systematically 「組織的に」
- ℓ. 18 ◇ suppress ～ 「～を抑圧する」
- ◇ practically 「ほとんど」

◇ originality 「独創性」

ℓ. 19 ◇ indeed 「もっとはっきり言えば」

ℓ. 20 ◇ rote memorisation 「機械的暗記；丸暗記」 アメリカ英語では「暗記」は memorization。

【2】

ポイント

問題文で論じられている meme (ミーム) とは、生物の遺伝子のような再現・模倣を繰り返して受け継がれていく社会習慣や文化のこと。英国の生物学者 Richard Dawkins の造語である。ところどころ比喩表現などもあるが、全体的には語彙も平易で読みやすい英文である。設問も特にひねったものはないので、ケアレスミスをしないように注意したい。

解答

(1) ① d ② c ③ a ④ b

(2) 子供に突然現れた、新しい身体的特徴。(18字)

(3) A (4) a (5) b, g (6) 「全訳」の下線部⑥参照。

解説

(1)

- ① equivalent 「相当するもの」: a heritage 「遺産」, b tradition 「伝統」, c collapse 「崩壊」, d counterpart 「相当するもの」
- ② descendants 「子孫」: a offspring 「子孫」, b grandparents 「祖父母」, c ancestors 「先祖」, d subordinates 「部下」
- ③ predilection 「特別の好み」: a prediction 「予測」, b preference 「好み」, c predominance 「優位」, d preparation 「準備」

(2) it が指すものを確定するために、it を含む文 (These changes … the child's descendants.) の意味を確認しておく。「これらの遺伝的変化の結果、子供に新しい身体的特徴が突然現れ、もしこの特徴がそれまでであったものよりも優れたものなら、それ (= その特徴) が子供の子孫に受け継がれる可能性はより大きなものになるだろう。」つまり、a new physical characteristic → the trait → it というつながりになっている。

「新しい身体的特徴」では8字にしかならないので、前後を含めて20字に近づける必要がある。the sudden appearance of a new physical characteristic in a child までが考えられる範囲だが、it が指すものはあくまでも a new physical characteristic なので、これを中心に据えて a new physical characteristic which (has) suddenly appeared in a child, つまり「子供に突然現れた、新しい身体的特徴。」(18字) とする。

(3) まず与えられた文の意味を正しくつかむ必要があるが、その際ポイントとなるのは、a few が何を指しているのか、および、and 以降の文の構造 (= 強調構文) と account for の意味を文脈の中で確認することである。同じくらい重要なのは代動詞 do の存在で、前の文に do で受けられる一般動詞があり、その動詞 (もしくはその

動詞を含む語群)をこの文の do に置き換えた時に意味を成すかをチェックする必要がある。さらに、前文とのつながりが‘逆接’の関係になるかどうか要確認である。こういった点に留意しながら1つ1つ見ていこう。

- A Most new traits do not improve survival chances and may disappear after a few generations. (ほとんどの新しい特徴は生存の可能性を向上させることはなく、したがって数世代後には消え失せてしまうかもしれない。)の中から do に相当する可能性のあるのは improve (survival chances) と disappear であるが、disappear とすると But につながらないので、この do は improve (survival chances) の代わりをしていると考える。account for ～ は「～の理由を説明する；～の原因となる」の意。a few / these が指すと考えられるものは new traits である。したがって、与えられた文は「しかし生存の可能性を向上させる新しい特徴も少しはあり、生物学的進化のもとになるのはこれらの特徴である。」という意味になり、うまく当てはまる。
- B Each child has to learn them again from the start. (子供たち1人ひとりがそれらをゼロから学び直さなければならない。)の中で do に相当する可能性のあるのは has to learn または learn であるが、「しかし、学ばなければならない[学ぶ]子供たちも少数おり、生物学的進化のもとになっているのはこういった子供たちだ。」では意味を成さない。
- C It is these memes that a creative person changes, and if enough of the right people see the change as an improvement, it will become part of the culture. (独創的な人が変えるのはまさしくこのようなミームであって、しかるべき人物がその変化を改善と認める状況が大勢を占めれば、それは文化の一部になるであろう。)の中で do に相当する可能性のあるのは see (the change as an improvement) または become (part of the culture) であろう。前者だとすれば「しかしその変化を改善と認める人は少数おり」となり、後者だとすると「しかし文化の一部になる変化は少数あり」となり、いずれもうまく当てはまらない。
- D To say that Thomas Edison invented electricity or that Albert Einstein discovered relativity is a convenient simplification. (トーマス・エジソンは電気を発明したとか、アルバート・アインシュタインは相対性原理を発見したと言うのは都合のよい単純化である。)の中に do に相当する可能性が考えられるのは say (that …) のみ。「しかし、…と言う者も少数おり、生物学的進化を説明するのはまさにこのような人たちである。」ではまるで意味を成さない。

以上より、正解はA。

- (4) 空所Xを含む文の意味は「言語、数、学説、歌、調理法、法、価値観はすべて、将来()されるように我々が子供に継承するミームである」。継承するということは、将来残る、今後も廃れないということであるから、「覚えられている；記憶に留められている」の意となる a remembered を選ぶ。気をつけなければならないのは、b reminded である。remind の基本的な使い方は remind + 人 + of ～ [to …; that 節] で、いずれも「人」に～[…すること；…ということ]を思い出させる」という意味。受動態で用いられると「人が～を思い出させられる」という意味になる。

したがってこの場合は they は our children を指して、「子供たちが何かを思い出させられる」という意味になるが、'of ~' の部分が欠落しているので何を思い出させられるかが不明で文意が通らない。c resolved は「(問題などが) 解決される」だが、they が「問題」などを指す可能性はない。d revert(ed) は「(前の状態などに) 戻る」の意の自動詞なので、受動態の形はあり得ない。

(5)

- a 「創造性は、生物学的に次の世代に伝えられる一種の遺伝子的物質である。」該当箇所は第1段落第1文の Creativity is the cultural equivalent of the process of genetic changes that result in biological evolution (創造性とは、生物学的進化という結果をもたらす遺伝的変化の過程に相当する文化的事象である) で、「遺伝的変化の過程に相当する文化的事象」であって「遺伝子的物質」ではない。したがって一致しない。
- b 「子供に新しい身体的特徴が突然現れるのは、我々の認識なしに起こる不規則変動による。」random variations (不規則変動) については、第1段落第1文に biological evolution (生物学的進化) をもたらす genetic changes (遺伝的変化) の説明として、where *random variations* take place in the chemistry of our chromosomes, below the threshold of consciousness (我々が意識しないところで染色体の化学的性質に不規則変動が発生する) とあり、続けて第2文には、これらの遺伝的変化の結果、the sudden appearance of a new physical characteristic in a child (子供における新しい身体的特徴の突然の出現) が生じる、とある。したがって、b は本文の内容と一致する。the threshold of consciousness は「識閾 (= 意識作用の生起と消滅との境界)」という意味であるが、これがわからなくても、threshold = 「敷居; 入り口」の意味から、「意識の敷居より下で」→「意識せずに; 認識なしに」という意味であると予測がつけられるだろう。
- c 「文化的環境にある子供は、生き残るために十分な知識を自動的に獲得できる。」該当箇所は第2段落の In cultural evolution there are no mechanisms equivalent to genes and chromosomes. Therefore, a new idea or invention is not automatically passed on to the next generation. (文化的進化には遺伝子や染色体に相当する仕組みはない。したがって、新しいアイデアや発明が自動的に次世代に受け継がれるわけではない。) で、そこに記されているように「自動的に獲得できる」わけではない。したがって一致しない。
- d 「ミームと生物学的進化の関係は、遺伝子や染色体と文化的進化との関係と同じである。」該当箇所は第2段落の The analogy to genes in the evolution of culture are *memes*, or units of information that we must learn if culture is to continue. (文化的進化の面で遺伝子に相当するのはミーム、つまり、文化が今後も続くとすれば我々が学びとらなければならない情報である。)。この選択肢は正しくは「ミームと文化的進化の関係は、遺伝子や染色体と生物学的進化との関係と同じである」と言うべき。したがって一致しない。
- e 「言語や数字や価値観はミームとみなすことができるが、火やハンドルや原子力エネルギーの使い方に関する指示はミームとはみなされない。」該当箇所の中で核になる

f 「創造性を理解するためには、私たちはただ、トーマス・エジソンやアルバート・アインシュタインのような新しい考え方を発案したり新しいものを作り出したりした個人を研究すればよい。」該当箇所は第3段落の to understand creativity it is not enough to study the individuals who seem most responsible for a novel idea or a new thing (創造性を理解するためには、奇抜なアイデアや新しいものに一番深く関わっていると思える個人を研究するのでは不十分である) で、「個人を研究すればよい」は内容と一致しない。

g 「もし以前の知識の蓄積がなかったら、新しい発見も新しい考え方も生まれなかったであろうに。」該当箇所は第3段落の Edison's or Einstein's discoveries would be inconceivable without the prior knowledge (エジソンの発見もアインシュタインの発見も、それに先駆ける知識がなければ考えも及ばないだろうに) で、この内容と一致する。

- To say that the theory of relativity was created by Einstein is like saying that

V C

(肺ガンによる死亡事例の約 90%は喫煙が原因になっている。)

3-7

の遺伝的变化の結果、子供に新しい身体的特徴が突然現れ、もしこの特徴がそれまであったものよりも優れたものなら、その特徴が子供の子孫に受け継がれる可能性はより大きなものになるだろう。新しい特徴はほとんどが生存の可能性を向上させることはなく、したがって数世代後には消え失せてしまうかもしれない。(A) しかし生存の可能性を向上させるものも少しはあり、生物学的進化のもとになっているのはまさにこのような特徴なのである。

文化的進化には遺伝子や染色体に相当する仕組みはない。したがって、新しいアイデアや発明が自動的に次世代に受け継がれるとは限らない。火やハンドルや原子力エネルギーの使い方の指示は、そのような発明が成された後に生まれた子供たちの神経系には組み込まれていない。子供たち1人ひとりがそれらをゼロから学び直さなければならない。文化的進化の面で遺伝子に相当するのはミーム、つまり、文化が今後も続くとすれば我々が学び取らなければならない情報である。言語、数、学説、歌、調理法、法、価値観はすべて、将来記憶に留められるように我々が子供に継承するミームである。独創的な人が変えるのはまさしくこのようなミームであって、しかるべき人物がその変化を改善と認める状況が大勢を占めれば、それは文化の一部になるであろう。

したがって、創造性を理解するためには、奇抜なアイデアや新しいものに一番深く関わっていると思える個人を研究するだけでは不十分である。彼らの貢献は、必要かつ重要ではあるが、一連の過程に含まれるものの1つにすぎない。トーマス・エジソンは電気を発明したとか、アルバート・アインシュタインは相対性原理を発見したと言うのは都合のよい単純化である。これは、理解しやすい話、超人的な英雄が登場する話を好むという人間の昔からの性癖を満足させるが、エジソンの発見もアインシュタインの発見も、それに先駆ける知識がなければ、彼らの思索に刺激を与えた知的・社会的ネットワークがなければ、また、彼らの革新を認めそれを広めた社会的な仕組みがなければ、考えも及ばないことだろう。⑥相対性理論はアインシュタインが生み出したものだと言うのは、火事の原因は火花にあると言うようなものだ。火花は必要条件だが、空気や火のつきやすいものがなければ炎は生まれまいだろう。

注

ℓ. 20 ◇ a link in a chain, a phase in a process : 両方とも同じことを指す表現で「一連の過程に含まれるものの1つ；ある過程の1段階」という意味。

【3】

A.

解答・解説

(1) His mother is as great *a* singer as ever lived in Japan.

「彼の母は日本では古今稀なほど偉大な歌手だ。」

○ as ~ as ever lived 「かつてないほど～な」

(2) The boys in this classroom are of *an* age.

「このクラスの少年たちは同じ年齢だ。」

○ of a [an] ~ 「同じ～の」

Ex. Birds *of a* feather flock together.

(同じ羽を持つ鳥は群れをなす (類は友を呼ぶ)。)

- (3) This is such *a* beautiful picture that I want to post it on my blog.
「これはとても美しい写真なので、ブログで紹介したい。」
(= This is so beautiful *a* picture that I want to post it on my blog.)
- (4) How great *a* crime had been committed was not made clear till next day.
「どれほど大きな犯罪が犯されたのか、翌日まで明らかにされなかった。」
cf. What *a* beautiful flower this is! = How beautiful *a* flower this is!
(この花はなんて美しいのでしょう!)
- (5) Many *a* poor peasant was obliged to leave his house.
「多くの小作農は家を出ることを余儀なくされた。」
= Many poor peasants were obliged to leave their houses.
○ many *a* + 単数 = many + 複数
- (6) I work out at least four times *a* week to build up my muscles even more.
「なおいっそうの筋肉をつけようと週4回筋トレをしている。」
○ ~ times *a* week 「1週間につき～回」

B.

解答・解説

- (1) by wrist → by the wrist 「警察官は私の手首をつかんで、私を椅子へと押し戻した。」
「腕をつかんだ」を英語では He caught my arm. という形だけでなく He caught me by the arm. という表現で表す。この場合、原則として He caught me by my arm. と言わないことに注意。
- (2) by a hour → by the hour 「カーシェアリングは、会員に対して自動車を時間単位で借りることを可能にする新しいサービスだ。」
○ by the + 単位 「～単位で」
- (3) There is the big park → There is a big park 「お城から2キロ離れたところに遊ぶことができる大きな公園がある。」
There is 構文は、ある不特定のものが存在することを表す構文。
- (4) British → the British, North of England → the North of England 「英国人は通常控えめだとみなされているが、イングランド北部では人々が極めて友好的であるのが普通だとわかるでしょう。」
単なる British では「英国の」という形容詞とみなされるのが普通。英国人は the British (= British people) とする。North of England は of England という限定がついているため the が必要。
- (5) one → the one, other → the other 「私たちの知覚は私たちの物質的世界と密接に結びついている。つまり前者〔一方〕は後者〔他方〕なしには存在しないのである。」
○ the one ～, the other … 「前者〔一方〕は～, 後者〔他方〕は…」

【4】

解答・解説

- (1) a 名詞節 b 副詞節「自分が病気であると強く信じすぎて、実際に気分が悪くなる人がいる。」
- (2) c 名詞節「そのアーティストがいつ空港に到着するか誰も知らない。」
- (3) d 形容詞節「ブライアンがその事件の真相を語ってくれる日がすぐに訪れるだろう。」
- (4) e 副詞節「その写真家は、人々が自分の写真を見た時に劇的な自然の驚異を楽しむことを希望している。」
- (5) f 形容詞節 g 名詞節「大都市の雑踏にうんざりしている旅行者は、この歴史的な町が新鮮な息吹のようだと感じるだろう。」

【5】

解答・解説

- (1) so
内容から so that S may [might] …の目的構文にする。
- (2) to
It is ~ that …の強調構文である。We are invited to some such game of ~ by that power. という英文を考える。
- (3) with
store A with B で「A に B を供給する」となる。supply A with B や provide A with B などと同じ用法。

全訳

物事を隠すのが神の栄光であり、神が隠した物事を探し出すのが我々の名誉である。ドイツでは復活祭（イースター）の時に色を塗った卵を家や庭のまわりに隠すのだが、それは子供たちがそれらを探し出して楽しむためである。我々がこうしたかくれんぼのようなゲームをするのは、我々の中に隠されたものを見つけたいという欲望を植えつけ、発見して喜べるようこの世界に隠された物事を散りばめた、神の力によって誘われるからである。

【6】

解答・解説

- (1) We can't tell if it will rain tomorrow, but if it rains [does], we won't go on a picnic.
初めの if 節は名詞節であるため will が入るが、次の if 節は副詞節であるから現在時制。
- (2) We hadn't been married one year before I realized I had never really known my wife.
直訳は「妻のことを本当に知らなかったと気づく前、1年も結婚していなかった。」となる。

- (3) It was not until we married that I saw my wife cry.
It is not until A that B (A になって初めて B) は頻出構文。
- (4) I saw my wife cry for the first time in our married life.
直訳は「結婚生活で初めて」となる。
- (5) I saw my wife cry for the first time in five years.
○ for the first time in ~ years 「～年ぶりに」



会員番号

氏 名